

九条だより

第191号

北広島九条の会 2023・11・01 発行
事務局 梁川彰博 (ヤガワ アキヒロ)
TEL・FAX 375-9600
メール kitahiro-9jounokai@live.jp
ホームページ www.kitahiro9.org

<11月例会のお知らせ>

11月25日(土) 午後2時~4時 住民センター
「近代日本の戦争について考える~満州事変を中心に」

後藤 啓倫(ごとう ひろみち) さん

星槎道都大学専任講師 法学博士 近現代史専門 (資料代200円 高校生以下無料)

☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆

岸田政権の暴走を止める共同の運動を。

8月の日米韓「合意」は「戦争への道」、ますます大軍拡へ。そして被災者や漁業者との約束を破って「フクシマ原発」の汚染水(アルプス処理水)の海洋放出を強行。岸田首相の強権発動です。

内閣改造しても岸田政権支持率は軒並み20~30%台に低下、不支持率の方が上回っています。

◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇

ガザ侵攻はただちに中止を! 暴力の悪循環を絶ち、関係各国と国際機関があらゆる外交努力を払い停戦協議を!

◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇

「まなび座」からのお知らせ

11月25日(土) 午前10時~正午 広葉交流センター

<テキスト>「デジタル・ファシズム」 堤 未果著 NHK出版新書

10月から新しいテキストになりました。事前にお求めください。

どなたでもご自由に参加できます。直接会場にお越しください。

☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆ ☆☆☆☆

「ボールパーク新駅を考える会」が発足。臨時市議会で調査費計上の補正予算。市民説明会の開催を直ちに!

JRがやっと新駅にかかる費用を発表しましたが、北広島市は、いつまで経ってもその内容を詳らかにしていません。10月24日の臨時市議会では1億5千万円の調査費が補正予算に計上され、一気に建設に向けてゴーサインが出されそうです。14日に50人の市民が参加して「BP新駅を考える会」が発足、こうした市民の懸念と不安に市は向き合うべきだとの意見が出されました。16日には、経済部長(BP事業の責任者)と面会、市長あての「申し入れ書」を手渡しました。

◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇ ◇◇◇◇

お知らせ 署名宣伝行動を冬時間に変更します。

11月9日(木)からの「九の日」宣伝行動の時間は午後2時からです。また、

11月19日(日)の「19の日」行動(市民連合主催)も午後2時になります。

北広島9条の会第17回総会・記念講演 川原 茂雄さん 札幌学院大学教授
**「戦争させない・しない世界と日本をつくるために～攻められたらどう
するではなく、攻められない平和のための準備を！」**

川原さんは北海道高校教員を長年勤め、各地で憲法や原発の「出前授業」をされています。

ロシアのウクライナ侵攻が始まり、国連は機能せず長期化しています。様々なメディアを通じて「戦場となったウクライナ」の光景をみて、以前とは異なって「戦争」がリアリティを持って感じられるようになりました。私たちは「自分の国が攻撃され、戦争が起きるかもしれない世界」にいるのではないかと。そこで「日本が他国から攻撃されたらどうする」ということがさかんに言われるようになりました。それに備えるために、軍事力の増強、敵基地攻撃能力・核共有の必要性、さらには憲法を改正しなければならないなど。

他国より強力な軍事力を持てば相手は警戒して攻撃してくることはないだろうという「抑止力としての軍事力増強論」は本当でしょうか。こちらが軍事力を強化すれば、相手もそれに対して軍事力を増強します。結果として戦争の危機は高まります。「安全保障のジレンマ」です。にもかかわらず、日本国憲法前文・第9条の平和主義を「お花畑論」と呼んで揶揄する声があります。中野晃一上智大学教授によれば、そのような人々は「素朴な武力主義者」です。そのような人々に対し、冷静に合理的・論理的に反論していかねければなりません。

戦争には必ず理由・原因・プロセスがあります。本当に「日本が攻撃される」事態が起こるのでしょうか。まずそこを冷静に考えなくてはなりません。次に軍事力で他国の侵攻を防ぐことが本当にできるのでしょうか。四方を海に囲まれている日本に上陸艇で兵士・戦車を上陸させようとすれば多大な犠牲を覚悟しなければなりません。可能性が高いのはミサイル・爆撃機・ドローンによる攻撃です。その際、原発や核施設を攻撃されれば一巻の終わりです。日本は「攻められたらどうする」ではなく、「攻められたら終わり」なのです。

そこで攻撃される前に攻撃するという敵基地攻撃能力が必要だといいますが、それは国際法が禁じる「先制攻撃」です。先制攻撃によって相手の軍事的能力を完全に無力化しない限り必ず反撃され、戦闘は長期化・泥沼化せざるをえません。

したがって今私たちが考えなければならないのは「攻められたらどうする」ではなく「戦争が起きないためにどうすればいいのか」です。岸田政権は防衛力増強・安保関連三文書改訂・武器輸出の動きなど、国会を通さず閣議決定によって軍拡路線を加速しています。一方で、原発回帰・軍拡のための財源確保など、物価高騰に国民が苦しんでいるにもかかわらず、さらなる国民負担を押し付けようとしています。

いま、わたしたちは、立憲主義・民主主義を回復させること、国連を中心とする国際社会における平和のルールが回復されるよう運動をすすめていくことが必要ではないでしょうか。